

インフルエンザワクチン接種（定期）を受けられる方へ

町が実施するインフルエンザの定期予防接種は、法律上の受ける義務はなく、自らの意思と責任で接種を希望する場合のみに行うものです。受けるにあたっては、下記の説明文をよく読まれワクチンの効果や副反応などについて理解した上で接種してください。

【ワクチンの効果と副反応】

ワクチン接種により、インフルエンザの感染の予防や感染しても症状の重症化を抑えることができます。また、インフルエンザによる合併症（肺炎など）や死亡を予防することが期待されます。副反応では、注射部位が赤くなる、腫れる、痛くなることがあります。通常は、2～3日で消失します。発熱、頭痛、寒気、倦怠感などもまれに起こります。ごくまれに、ショックや蕁麻疹、呼吸困難などあらわれることがあります。また、強い卵アレルギーのある方は、強い副反応を生じる可能性がありますので、必ず医師に申し出てください。

【接種不相当者（接種を受けることが適当でない者）】

1. 接種当日、明らかな発熱を呈している者（接種前の体温が37.5℃以上）
2. 重篤な急性疾患にかかっている者
3. インフルエンザワクチン成分や卵等でアナフィラキシーショックを呈したことがある者
4. インフルエンザ予防接種を受け2日以内に発熱のみられた者、又は全身性発疹等のアレルギーを疑う症状のみられた者
5. 上記の他、予防接種を受けることが不適当な状態にある者（個別ケースによって接種医師が判断されま

【接種要注意者（接種に際し注意を要する者）】

1. 心臓、じん臓または呼吸器の機能に障害があり、自己の身の日常生活が極度に制限される者
2. ヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に日常生活がほとんど不可能な程度の障害のある者

【ワクチン接種後の注意】

1. 予防接種後24時間は副反応の出現に注意し、様子をみてください。特に接種直後の30分以内は、急な副反応がおこることがありますので、健康状態の変化に注意してください。
2. 接種した日は1時間以上すれば、入浴しても差し支えありませんが接種部位をこすらず清潔に保ってください。又、過激な運動や大量の飲酒は避けてください。
3. 予防接種後は、注射部位をもまないで下さい。（アナフィラキシーショックを起こしやすくします。）
4. 接種局所の異常反応や高熱、けいれんなどの異常な症状が出た場合は、速やかに医師の診察を受けて、総合保健福祉センターにもご連絡下さい。

※アナフィラキシーショックとは通常接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急にはれる、全身のひどいじんましん、吐き気、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応のことです。

※万が一、定期予防接種による重篤な健康被害が発生した場合は、予防接種法による救済制度があります。